



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	調理実習に対する児童の意識(fulltext)
Author(s)	堀内,かおる; 武井,洋子; 田部井,恵美子
Citation	東京学芸大学紀要 . 第 6 部門 , 技術・家政・野外教育, 45: 175-184
Issue Date	1993-11-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/3951
Publisher	
Rights	

調理実習に対する児童の意識

堀内 かおる*・武井 洋子**・田部井 恵美子

家庭科教育学***

(1993年7月26日受理)

HORIUCHI, K., Y. TAKEI and E. Tabei.: Children's consciousness towards food preparation. Bull. Tokyo Gakugei Univ. Sect. 6, 45: 175-184 (1993) ISSN 0387-9853

This study investigated consciousness towards food preparation of 5th and 6th grade elementary school children. The results are as follows:

1. Children's learning motivation of food preparation was high among both boys and girls. The 5th grade children's motivation was higher than the 6th grade children.
2. The ratio of 5th grade children who thought that cooking skills were easy was higher than 6th grade children.
3. Children who thought that food preparation skills were necessary for both boys and girls had higher learning motivation, and these boys comparatively did food preparation at home. (in Japanese)

KEY WORDS : Children's consciousness, Homemaking education, Food preparation, Elementary school

Department of Home Economics, Tokyo Gakugei University, Koganei-shi, Tokyo 184, Japan.

1. 緒 言

調理実習は、家庭科における実践的・体験的な学習として特徴的な活動である。1989(平成1)年告示の小学校学習指導要領では、家庭科で実践的・体験的な学習の充実をより一層はかることが目指されている。本研究は、家庭科の学習の中で特に児童の実践が重視される調理実習をとりあげ、その効果的な指導方法を検討するための資料として、学習に関する児童の意識を調査し、まとめたものである。

* 鳥取大学 (680 鳥取市湖山町南4-101)
** 東京学芸大学名誉教授
*** 東京学芸大学 (184 小金井市貫井北町4-4-1)

調理実習に対する児童の意識に関する先行研究として、大山ら¹⁾²⁾のものがある。大山らは調理実習について、児童の調理作業（「生野菜サラダ」、「ゆで卵」、「青菜の油いため」、「ごはんたき」、「みそしる」、「目玉焼」、「こふきいも」）に対する難易の意識や興味、自己評価について調査を行っている。しかし大山らが行っている意識は前記の3項目に限定されており、また、1970年から1973年の調査結果である。そのため、調理実習に対する児童の意識の変化を把握し、指導に生かすための調査を行う必要性が認められる。

調理実習とならび学習時に児童の主体的な活動が求められる被服製作に対する児童の意識に関しては、既に報告した³⁾ように、男女ともに被服製作に対する性別役割分業の意識が認められ、学年進行にともなう学習意欲や被服製作に対する自信の低下がみられた。また、縫製技術を「男女とも必要」と考える児童の学習意欲は、それ以外の児童と比較すると高率であることが示された。

本報では被服製作に対する児童の意識調査と同様の方法により、調理実習に対する児童の意識調査結果を報告する。

2. 方 法

2. 1 調査対象

調査対象者の内訳を表1に示す。

東京都内の国立大学附属小学校1校、私立小学校1校、公立小学校2校の第5・6学年男女児童合計979名を対象とした。本調査の対象者は、既報の被服製作に対する児童の意識調査の調査対象校から大田区立C小学校を除いた4校である。したがって、対象児童の大部分は被服製作に対する意識調査にも回答しており、新たにB校の第5学年の一部の児童が調査対象者として加えられている。

表1 調査対象者の内訳

(単位：人)

学年 性別 対象校	第5学年		第6学年		合 計		
	男	女	男	女	男	女	全体
国立大学附属A小学校	74	75	77	73	151	148	299
私立B小学校	67	40	51	36	118	76	194
世田谷区立D小学校	88	73	82	83	170	156	326
調布市立E小学校	44	40	40	36	84	76	160
合 計	273	228	250	228	523	456	979

(注) 有効回収率96.9%

2. 2 調査実施期間および方法

調査実施期間は、1990(平成2)年2月～3月である。調査方法は質問紙を用いて留置法による集合調査を行った。

質問紙の内容は、被服製作に対する意識と比較した考察が可能のように、相互に対応するような項目を54項目設定した。これらの項目は、学習意欲、創意工夫、成就感・手作りの価値、有用性、技術の難易、自信、性別役割分業意識、否定的意識の8領域からなるものである。回答は、「とてもそう思う」、「少しそう思う」、「あまりそう思わない」、「全然そう思わない」の4段階の選択肢から1つを選択させた。

集計にはSPSSX統計パッケージによるコンピュータ処理を施し、結果の統計的な有意性の検証には、 χ^2 検定を行った。

3. 結果および考察

3. 1 性別・学年別の傾向

54項目について、性別・学年別の傾向を表2に示す。「とてもそう思う」割合と「そう思う」割合を合わせて「そう思う」割合として、特に特徴的な傾向を示す項目について述べる。

学習意欲に関する項目(No.1～21)については、「家庭科の授業で、調理実習をやりたい」という意識は、男女ともに約8～9割を占めており、「調理実習で作ったものを食べるのが楽しい」という回答も、約8～9割である。調理実習を行うこと、実習において試食をすることは、男女ともに高率で肯定している。

しかし、「調理実習で調理をすることが楽しい」という男子は約7割、女子は約9割、「調理をすることが好きだ」という男子は約6割、女子は約9割となっており、「もっとうまく調理ができるようになりたい」と回答した男子は約6割、女子は約9割である。このように男女の意識には差が生じている。

また、児童が「おもしろい」と思う割合をみると、全体的にみて男子より女子が高率を示しているが、「おもしろい」と思う題材の順位は男女とも一致している。すなわち、「おやつ」、「油いため」、「サラダ」と続き、以下「野菜や果物の皮をむくこと」、「野菜や果物を切ること」の順に「おもしろい」と感じている。

次に、学年別にみると、第6学年になると学習意欲の低下が顕著であり、表2に示す学習意欲以外の各項目においても、調理実習に対する肯定的な見解は第6学年の方が第5学年よりも低率を示している。

創意工夫(No.22, 23)に関しては、実習において「好きなものを自由に考えて作りたい」と回答した割合(男68.2%、女83.1%)が、被服製作における意識(男76.6%、女90.7%)よりも低い。被服製作と比較して調理実習は、グループで行われることが多いことと、施設・設備や材料の準備などに関する制約のあることが、児童の意識に影響を及ぼしているように思われる。

成就感・手作りの価値に関する項目(No.24～No.29)では、「苦勞して調理したものが出来上がったときはとてもうれしい」と回答した男子は76.8%、女子91.6%である。被服製作についての同様の項目においては、男子の84.4%、女子の94.1%が「そう思う」と回答しており、特に男子は、調理実習よりも被服製作において、より多くの成就感を得ているように思われる。

日本家庭科教育学会が行った調査⁴⁾によると、調理ができるようになりたい理由として最も高率を示していたのは、男女ともに「自分のためになる」ということであった。しかし、第2に男子は「好きなときに食べられる」をあげ、女子は「家の人が喜ぶ」からと回答した。本調査の結果も「自分で調理したものをだれかに食べてもらいたい」という意識は男子約5割、女子約8割で男女差が開いており、上記調査結果と同様に、特に女子に「誰かのため」に調理を行うという意識が認められる。

有用性(No.30, 31)に関しては、「調理の仕方を覚えておくと役に立つ」と思う男子は約8割、女子は約9割である。被服製作においては「自分でボタンを付けられるようになることは役に立つと思う」と回答した割合は、男子約8割、女子約9割であるが、「いろいろな縫い方を覚えておくと役に立つと思う」と回答した割合は男子約7割、女子約9割で、男子は、やや低率となる。児童の調理ならびに被服製作に対する有用性の認識は、日常的な必要性に関連するものと思われる。

調理技術の難易に関する項目(No.32～38)について、第5学年の調理題材を「簡単だ」と

表2 調理実習に対する意識

調査項目	性別	意識				χ^2	学年	意識				χ^2
		とても	すこし	あまり	ぜんぜん			とても	すこし	あまり	ぜんぜん	
1. 家庭科の授業で調理実習をやりたい	男	55.1	21.4	12.0	11.5	**	5	71.3	16.6	7.4	4.8	**
	女	77.4	14.3	4.6	3.7		6	59.4	19.7	9.8	11.1	
2. もっと難しい調理をすることに挑戦してみたい	男	35.4	17.2	19.9	27.5	**	5	55.5	18.8	15.4	10.4	**
	女	62.7	19.5	11.6	6.1		6	40.4	17.8	16.7	25.1	
3. 調理することはやりがいのあることだ	男	31.7	28.3	20.1	19.9	**	5	48.5	30.1	13.2	8.2	**
	女	55.0	29.4	11.0	4.6		6	36.4	27.4	18.6	17.6	
4. 家庭科の調理実習でしなかった調理を自分でしてみたい	男	34.2	21.0	20.1	24.7	**	5	55.1	21.4	13.4	10.2	**
	女	66.0	20.2	8.8	5.0		6	42.7	19.9	16.3	21.1	
5. ほうちようやナイフを使って野菜や果物の皮をむくことはおもしろい	男	24.7	21.6	26.0	27.7	**	5	38.3	27.5	21.6	12.6	**
	女	43.2	31.4	18.4	7.0		6	28.0	24.7	23.4	23.8	
6. 調理の後片付けで食器を洗うことはおもしろい	男	11.9	13.4	28.1	46.7	**	5	22.0	23.6	28.3	26.1	**
	女	26.1	28.7	29.2	16.0		6	14.9	17.4	28.9	38.9	
7. おやつを作ることはおもしろい	男	41.3	18.4	15.5	24.9	**	5	69.3	15.8	7.4	7.6	**
	女	76.8	16.4	3.9	2.9		6	45.8	19.2	13.0	22.0	
8. 油いためを作ることはおもしろい	男	34.6	24.7	20.7	20.1	**	5	53.9	25.7	13.0	7.4	**
	女	54.6	27.9	12.5	5.0		6	33.5	26.6	20.9	19.0	
9. ほうちようやナイフを使って野菜を同じくらいの大きさに切ることはおもしろい	男	21.0	21.8	27.7	29.4	**	5	33.7	28.9	23.0	14.4	**
	女	39.0	29.2	21.3	10.5		6	24.9	21.3	26.6	27.2	
10. 生野菜のサラダを作ることはおもしろい	男	32.9	23.7	20.3	23.1	**	5	54.7	23.0	13.6	8.8	**
	女	56.1	24.6	12.9	6.4		6	32.2	25.3	20.3	22.2	
11. 家庭科で実習した調理をもう一度家でしてみたい	男	31.4	23.1	22.4	23.1	**	5	47.9	27.5	14.8	9.8	**
	女	52.2	27.2	14.7	5.9		6	33.9	22.4	23.0	20.7	
12. 調理は練習すればうまくなると思う	男	51.4	23.9	11.1	13.6	**	5	65.5	23.0	7.0	4.6	**
	女	72.4	21.3	4.4	2.0		6	56.7	22.4	9.0	11.9	
13. もっとうまく調理ができるようになりたい	男	40.9	21.8	16.4	20.8	**	5	60.7	18.8	12.0	8.6	**
	女	75.9	12.9	7.9	3.3		6	53.6	16.5	13.0	16.9	
14. 調理をするときは、自分の力で作り上げたい	男	40.2	25.0	17.8	17.0	**	5	60.3	22.2	11.0	6.6	**
	女	64.9	23.7	8.1	3.3		6	42.7	26.8	15.7	14.9	
15. 調理をすることが好きだ	男	33.1	26.0	20.7	20.3	**	5	53.5	26.3	12.2	8.0	**
	女	64.0	25.9	6.8	3.3		6	41.2	25.5	16.3	16.9	
16. いろいろな調理をしてみたい	男	45.7	22.9	12.2	19.1	**	5	68.9	16.8	7.8	6.6	**
	女	79.4	12.7	4.8	3.1		6	53.6	19.7	9.8	16.9	
17. 調理実習で作ったものを食べることが楽しい	男	63.5	16.6	9.0	10.9	**	5	73.1	17.4	5.4	4.2	**
	女	72.6	19.3	4.4	3.7		6	62.1	18.4	8.4	11.1	
18. 調理実習で班の人たちと力を合わせて協力することが楽しい	男	26.0	33.7	22.9	17.4	**	5	38.3	35.7	17.4	8.6	*
	女	47.8	33.8	14.3	4.2		6	33.9	31.6	20.5	14.0	
19. 調理実習で調理をすることが楽しい	男	44.2	22.9	17.0	15.9	**	5	65.9	18.6	10.8	4.8	**
	女	72.6	16.7	7.2	3.5		6	48.5	21.5	14.2	15.7	
20. 調理実習の時は自分から進んで後片付けをするほうだ	男	12.4	28.9	34.8	23.9	**	5	21.0	41.3	28.3	9.4	**
	女	26.5	45.8	23.2	4.4		6	16.9	32.0	30.5	20.5	
21. 調理実習のときは、自分から進んで包丁やナイフで野菜を切ったりする方だ	男	21.8	23.3	28.9	26.0	**	5	33.9	29.7	23.6	12.8	**
	女	39.7	34.0	20.6	5.7		6	26.2	26.8	26.6	20.5	
22. 家庭科で調理実習をする時は、自分の好きな材料を自由に買って用意したい	男	44.9	18.5	16.4	20.1	**	5	50.3	23.4	16.4	10.0	**
	女	53.3	24.1	17.1	5.5		6	47.3	18.8	17.2	16.7	
23. 家庭科で調理実習をするときは、自分の好きなものを自由に考えて作りたい	男	48.9	19.3	17.4	14.3	**	5	55.9	22.4	14.4	7.4	*
	女	55.5	27.6	12.9	3.9		6	47.9	24.1	16.3	11.7	
24. あまりうまくできなくても、自分で調理したものは、おいしく感じる	男	47.2	18.7	15.7	18.4	**	5	61.1	18.4	14.2	6.4	**
	女	57.2	23.0	14.9	4.8		6	42.3	23.2	16.5	18.0	
25. 自分で調理したものを、だれかに食べてもらいたい	男	31.2	23.3	23.9	21.6	**	5	49.1	24.0	15.8	11.2	**
	女	57.2	23.7	11.4	7.7		6	37.2	23.0	20.5	19.2	
26. 家族の人たちに、自分で調理したものを食べてもらいたい	男	33.8	22.6	19.9	23.7	**	5	53.7	21.4	15.2	9.8	**
	女	61.8	20.2	12.1	5.9		6	39.7	21.5	17.4	21.3	
27. 家族の人たちは、自分の調理したものを喜んで食べてくれると思う	男	41.7	23.9	17.4	17.0	**	5	59.5	21.8	11.8	7.0	**
	女	64.7	23.0	6.6	5.7		6	45.0	25.3	13.0	16.7	

注1) n=男;523, 女;456, 第5学年;501, 第6学年;478 2) とても...とても思う, すこし...少し思う,

(単位; %)

調査項目	性別	意識			χ ²	学年	意識				χ ²
		とてもすこし	あまり	ぜんぜん			とてもすこし	あまり	ぜんぜん		
28. 苦勞して調理したものができあがったときはとてもうれしい	男	53.7	23.1	9.4	13.8	5	73.9	15.8	5.8	4.6	**
	女	80.9	10.7	5.3	3.1	6	58.6	19.0	9.2	13.2	
29. 調理したものには調理した人の心がこもっている	男	34.4	30.4	17.2	18.0	5	49.7	29.7	13.0	7.6	**
	女	60.3	26.3	9.0	4.4	6	43.1	27.2	13.8	15.9	
30. いろいろな調理のしかたを、覚えておくと役に立つと思う	男	52.6	24.7	10.1	12.6	5	73.7	16.4	5.8	4.2	**
	女	81.8	14.0	2.6	1.5	6	58.4	23.2	7.5	10.9	
31. 調理用具の使い方を覚えておくと役に立つと思う	男	46.3	23.5	12.8	17.4	5	65.3	20.4	7.2	7.2	**
	女	72.4	18.9	5.7	3.1	6	51.3	22.4	11.9	14.4	
32. ほうちょうやナイフを使って、野菜や果物の皮をむくことは簡単だ	男	14.9	18.2	31.2	35.8	5	19.8	28.3	31.1	20.8	*
	女	27.2	32.2	30.5	10.1	6	21.5	20.9	30.5	27.0	
33. ほうちょうやナイフを使って、野菜を同じくらいの大きさに切ることは簡単だ	男	18.5	20.5	33.3	27.7	5	22.0	33.3	31.1	13.6	**
	女	27.9	39.0	26.5	6.6	6	23.8	24.7	29.1	22.4	
34. 計量スプーンや計量カップを使って、調味料を正しく計ることは簡単だ	男	22.6	25.6	30.0	21.8	5	28.7	35.3	26.7	9.2	**
	女	34.4	39.0	22.8	3.7	6	27.4	28.2	26.6	17.8	
35. 生野菜のサラダを作ることは簡単だ	男	29.4	31.0	22.2	17.4	5	46.1	32.1	15.4	6.4	**
	女	60.3	30.9	7.0	1.8	6	41.4	29.7	14.9	14.0	
36. 油いためを作ることは簡単だ	男	23.7	26.8	28.3	21.2	5	32.7	37.7	21.0	8.6	**
	女	40.1	39.0	18.4	2.4	6	29.9	27.0	26.6	16.5	
37. おやつを作ることは簡単だ	男	18.5	17.8	28.5	35.2	5	26.1	32.9	25.1	15.8	**
	女	28.5	35.5	27.9	8.1	6	20.1	18.8	31.4	29.7	
38. 調理の後片付けで食器を洗うことは簡単だ	男	20.8	24.7	28.3	26.2	5	38.3	27.1	21.8	12.8	**
	女	48.5	31.6	15.6	4.4	6	28.9	28.7	23.0	19.5	
39. 他の人に比べて、調理することが得意な方だ	男	12.8	16.4	33.1	37.7	5	13.6	26.9	38.9	20.6	**
	女	15.4	32.0	40.8	11.8	6	14.4	20.3	34.3	31.0	
40. 自分は器用な方だと思う	男	22.6	17.0	27.3	33.1	5	17.4	26.1	33.1	23.4	**
	女	15.8	26.1	38.2	20.0	6	21.5	16.1	31.6	30.8	
41. 調理をすることには、自信がある	男	18.0	17.8	30.6	33.7	5	19.2	29.1	31.5	20.2	**
	女	22.4	30.7	31.6	15.4	6	20.9	18.2	30.5	30.3	
42. 男の子は、調理ができないと困る	男	22.6	24.9	21.6	31.0	5	24.0	29.7	26.1	20.2	**
	女	23.2	33.3	30.5	12.9	6	21.8	27.8	25.3	25.1	
43. 女の子は調理ができないと困る	男	54.7	20.7	10.9	13.8	5	55.3	24.8	10.4	9.6	**
	女	48.7	29.6	13.8	7.9	6	48.3	24.9	14.2	12.6	
44. 男の子は調理の仕方を勉強した方がよい	男	18.7	25.8	24.7	30.8	5	20.0	31.1	28.9	20.0	**
	女	19.5	35.7	32.7	12.1	6	18.2	29.7	27.8	24.3	
45. 女の子は調理の仕方を勉強した方がよい	男	57.6	19.7	10.5	12.2	5	55.3	25.9	10.4	8.9	**
	女	51.3	29.4	11.8	7.5	6	54.0	22.4	11.9	11.7	
46. 男の子でうまく調理ができないことは、はずかしいことだと思う	男	9.2	14.9	30.0	45.9	5	9.4	12.6	37.5	40.5	**
	女	10.3	13.4	43.0	33.3	6	10.1	15.9	34.5	39.5	
47. 女の子でうまく調理ができないことは、はずかしいことだと思う	男	44.6	20.3	15.9	19.3	5	40.5	26.3	17.8	15.4	*
	女	30.7	29.8	22.6	16.9	6	35.6	23.0	20.3	21.1	
48. 調理をすることは女らしいことだと思う	男	25.4	20.8	24.3	29.4	5	26.9	26.5	23.0	23.6	**
	女	31.8	26.1	26.1	16.0	6	29.9	19.9	27.4	22.8	
49. 調理することは、めんどくさい	男	15.9	16.4	32.5	35.2	5	5.8	13.2	28.5	52.5	**
	女	5.0	9.9	27.2	57.9	6	16.1	13.6	31.6	38.7	
50. 調理をしていると、すぐにあきてしまう	男	12.8	14.0	33.1	40.2	5	5.6	9.0	28.7	56.7	**
	女	5.7	7.0	24.8	62.5	6	13.6	12.6	29.7	44.1	
51. うまく調理ができないといらいらする	男	23.5	19.9	27.0	29.6	5	15.2	21.2	32.9	30.7	**
	女	17.5	24.6	32.9	25.0	6	26.6	23.0	26.4	24.1	
52. 調理の仕方を失敗してやり直しをしているとき、途中でやめてしまいたくなる	男	22.0	16.4	30.8	30.8	5	11.2	17.6	34.9	36.3	**
	女	8.3	18.9	36.6	36.2	6	20.3	17.6	32.0	30.1	
53. 調理がうまくできないので、家庭科の勉強で調理実習をしたくない	男	10.3	11.5	32.7	45.5	5	6.0	8.0	27.1	58.9	**
	女	3.7	5.0	23.5	67.8	6	8.6	9.0	29.7	52.7	
54. 自分で調理したものは、おいしくないのだから	男	10.3	8.8	31.3	49.1	5	4.0	7.8	30.3	57.9	**
	女	5.5	7.9	34.6	52.0	6	12.3	9.0	36.0	42.7	

あまり…あまりそう思わない、ぜんぜん…全然そう思わない 3) *P<0.05、**P<0.01で有意差あり

思う割合は、いずれも第5学年の方が高率を示しており、学年進行にともない技術的な面での自信が失われる傾向を示している。性別では女子の方が「簡単だ」と考える割合が高い。調理実習に対する自信 (No.39~41) に関しては、男子の約4割、女子の約5割が「調理をすることに自信がある」と回答している。

性別役割分業に関する意識 (No.42~48) では、男子、女子ともに、女子の役割として調理実習をとらえているものが約7~8割を占めているが、男子は調理実習ができなくても困らないと考え、調理を学ばなくてもよいと考えている率が高い。しかし女子は男子に対して、男子は調理ができないと困ると考えており、また、男子が調理を勉強したほうがよいと考えている。このように、男女間に差がみられた。

学年間に有意差の認められたのは、「女の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思う」という1項目であった。しかし、被服製作の場合は、「うまく縫えないことは恥ずかしいこと」という項目を除くすべての項目について、学年間に有意差が認められ、調理の場合と反対の傾向を示した。すなわち調理に関しては、「勉強したほうが良い」、「できないと困る」という必要性の認識において、学年間に差のないことを示しているといえよう。

先行研究において、児童・生徒は「食事の用意」や「食事の後片付け」を、「女の子がすれば良い」と考えていることが指摘されており⁵⁾、本調査の結果からも、調理に対する固定的な性別役割分業意識が認められる。

否定的意識 (No.49~54) に関しては、女子よりも男子が全体的に高率となっている。調理を「めんどろ」と思う割合は、女子では約1割であるのに対し、男子は約3割である。特に、「全然そう思わない」と回答した女子は約6割であり、顕著な傾向を示している。

3. 2 学習意欲と性別役割分業意識との関連

学習意欲に関するNo.1~21の調査項目について、選択肢の「とてもそう思う」を4点、「少しそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「全然そう思わない」を1点として得点化し、個々の児童について、学習意欲に関する項目の平均点を求めた。そして、全児童の学習意欲に関する項目の平均点である2.96点以上の児童を高意欲群、2.96点未満の児童を低意欲群として分類した。高意欲群、低意欲群の児童の内訳を表3に示す。

表3 高意欲群・低意欲群の内訳
単位:人 (%)

意欲群	第5学年		第6学年		合計		
	男	女	男	女	男	女	全体
高意欲群	147 (53.8)	200 (87.7)	87 (34.8)	159 (69.7)	234 (44.7)	359 (78.7)	593 (60.6)
低意欲群	126 (46.2)	28 (12.3)	163 (65.2)	69 (30.7)	289 (55.3)	97 (21.3)	386 (39.4)
合計	273 (100.0)	228 (100.0)	250 (100.0)	228 (100.0)	523 (100.0)	456 (100.0)	979 (100.0)

被服製作に対する意識の傾向と同様に、第5学年の方が第6学年よりも、また女子の方が男子よりも高意欲群の占める割合が大きい。次に、これらの意欲群別に性別役割分業意識に関する調査項目への回答をみることにする。

表4に示した結果から、高意欲群の男子では「42、男の子は調理ができないと困る」、「44、男の子は調理の仕方を勉強した方がよい」という意識が6割を上回り、男子が調理を学習することに対して、最も高率で肯定している。このことは、被服製作に対する意識と同様の傾向を示している。

ここで注目されるのが高意欲群の女子の傾向である。高意欲群の女子の約9割は、「43、女の子は調理ができないと困る」、「45、女の子は調理の仕方を勉強した方がよい」と考えている。しかし、男子に対しては、同様の項目 (No.42, 44) を肯定する割合は、約6割である。これら

の結果は被服製作に対する調査結果と共通しており、小学校高学年の女子が女性役割として被服製作や調理をとらえ、これらの活動に高い意欲を示すことが考えられる。

次に、性別役割分業意識に基づく調査項目から、児童を類型化した。すなわち、「男女とも調理の仕方を勉強した方が良く、男女とも調理ができないと困る」と思う児童を「男女必要型」(No.42, 43, 44, 45すべて「そう思う」と回答)、「男子は調理の仕方を学習しなくても良いが女子は学習した方が良く、男子は調理ができなくても困らないが女子はできないと困る」と思う児童を「女子必要型」(No.42「そう思わない」, No.43「そう思う」, No.44「そう思わない」, No.45「そう思う」と回答)、「男女とも調理の仕方を学習する必要はなく、男女とも調理ができなくても困らない」と思う児童を「男女不要型」(No.42,43,44,45すべて「そう思わない」と回答)とした。そして、それぞれの類型に該当する児童を抽出したところ、表5に示すように分類された。

表4 学習意欲と性別役割分業意識との関連
(単位: %)

調査項目	性別	高意欲群	低意欲群	χ^2
42.男の子は、調理ができな いと困る	男	65.0	33.2	**
	女	57.9	51.5	**
43.女の子は、調理ができな いと困る	男	84.2	68.2	**
	女	86.4	48.5	**
44.男の子は調理の仕方を勉 強した方がよい	男	68.8	24.9	**
	女	58.8	42.3	**
45.女の子は調理の仕方を勉 強した方がよい	男	85.9	70.2	**
	女	89.7	47.4	**
46.男の子でうまく調理ができな いとは、はずかしいことだと思 う	男	32.9	17.0	**
	女	24.8	19.6	*
46.女の子でうまく調理ができな いとは、はずかしいことだと思 う	男	68.4	61.9	*
	女	68.8	29.9	**
47.調理をすることは、女ら しいことだと思	男	42.3	49.5	*
	女	66.9	24.7	*

注1) 高意欲群男子 (n=234), 高意欲群女子 (n=359)
低意欲群男子 (n=289), 低意欲群女子 (n=97)
を、それぞれ100とした割合を示す。

2) ** P<0.01で有意差あり。

表5 性別役割分業意識に基づく調理実習の必要性

単位: 人 (%)

学年 性別 学習の 必要性	第5学年		第6学年		合 計		
	男	女	男	女	男	女	全体
男女必要型	80 (29.3)	85 (37.3)	62 (24.8)	79 (34.6)	142 (27.2)	164 (36.0)	306 (31.3)
女子必要型	71 (26.0)	49 (21.5)	76 (30.4)	45 (19.7)	147 (28.1)	94 (20.6)	241 (24.6)
男女不要型	22 (8.1)	8 (3.5)	25 (10.0)	19 (8.3)	47 (9.0)	27 (5.9)	74 (7.6)

注1) () 内は、第5学年男子 (n=273), 第5学年女子 (n=228), 第6学年男子 (n=250), 第6学年女子 (n=228), 男子計 (n=523), 女子計 (n=456), 合計 (n=979), をそれぞれ100とした割合を示す。

- 2) ・男子必要型…「男女とも調理の仕方を学習した方が良く、男女とも調理ができないと困る」と思う児童
 ・女子必要型…「男子は調理の仕方を学習しなくても良いが、女子は調理の仕方を学習した方が良く、男子は調理ができなくても困らないが、女子は調理ができないと困る」と思う児童
 ・男女不要型…「男女とも調理の仕方を学習する必要はなく、男女とも調理ができなくても困らない」と思う児童

表6 調理実習の必要性和学習意欲との関連

(単位：%)

調査項目	性別	男女必要型	女子必要型	男女不要型
1.家庭科の授業で調理実習 をやりたい	男	92.2	72.8	48.9
	女	96.3	94.7	77.8
3.調理をすることは、やり がいのあることだ	男	88.7	41.5	25.5
	女	94.5	87.3	44.4
11.家庭科で実習した調理を もう一度家でしてみたい	男	81.7	39.4	25.5
	女	87.8	86.1	55.6
13.もっとうまく調理ができ るようになりたい	男	93.6	41.5	19.1
	女	98.1	92.6	77.8
15.調理をすることが 好きだ	男	84.5	40.8	27.7
	女	97.0	92.6	77.8

- 注1) ・男女必要型…「男女とも調理の仕方を学習した方が良く、男女とも調理ができないと困る」と思う児童
 ・女子必要型…「男子は調理の仕方を学習しなくても良いが、女子は調理の仕方を学習した方が良く、男子は調理ができなくても困らないが、女子は調理ができないと困る」と思う児童
 ・男女不要型…「男女とも調理の仕方を学習する必要はなく、男女とも調理ができなくても困らない」と思う児童
 2) 男女必要型男子 (n=142), 男女必要型女子 (n=164), 女子必要型男子 (n=147), 女子必要型女子 (n=94), 男女不要型男子 (n=47), 男女不要型女子 (n=27) をそれぞれ100とした割合を示す。

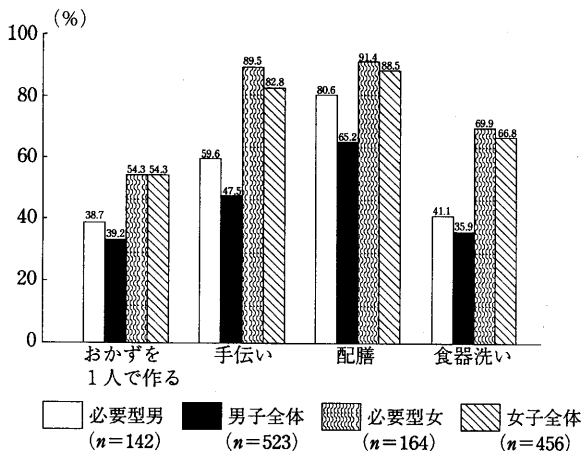
第5学年は、男女ともに男女必要型が最も高率を占めている。しかし第6学年では、男子の「女子必要型」が第5学年よりやや増加し3割を占めるようになり、女子の「男女必要型」は、第5学年よりやや減少する。一方、男女ともに第5学年と比較して第6学年の「男女不要型」の増加がみられる。

次に、これらの類型別に児童の学習意欲を比較した結果を表6に示す。

「男女必要型」の児童は、男女とも8～9割の高率を示し、意欲的である。全体的にみて「男女必要型」、「女子必要型」、「男女不要型」の順に調理実習に対する意欲が高い。しかし女子については、「女子必要型」も「男女必要型」と近似した数値を示している。

3. 3 家庭における経験と性別役割分業意識との関連

前述の「男女必要型」の児童の家庭における調理経験を図1に示す。「男女必要型」について



- 注1) 必要型男…「男女とも調理の仕方を学習した方が良く、男女とも調理ができないと困る」と思う児童
 必要型女…「男子は調理の仕方を学習しなくても良いが、女子は調理の仕方を学習した方が良く、男子は調理ができなくても困らないが、女子は調理ができないと困る」と思う児童
 2) 「よくする」[とときどきする]と回答した割合の合計値を示す。

図1 「男女必要型」児童の家庭における調理経験

ては、男女とも家庭における調理経験の頻度が男子全体および女子全体の頻度を上回っており、特に男子にこの傾向が顕著である。「おかずを一人で作る」のは、男子は約4割、女子は約5割で、自分一人で調理をする経験は多くはないものの、「男女必要型」の児童は「手伝い」という形での、調理に関する経験のある児童といえよう。

3. 4 技術の難易の認識と学習意欲との関連

調理技術の難易に関するNo.32～38の調査項目について「簡単だ」と思う児童を抽出した結果を表7に示す。

表7 本調査でとりあげたすべての調査技術を簡単だと思う児童の内訳

単位: 人 (%)

学年	性別	男	女	合計
第5学年	男	42	99	141
	学年	(15.4)	(43.4)	(28.1)
第6学年	男	16	77	93
	学年	(6.4)	(33.8)	(19.5)
合計		58	176	234
		(11.1)	(38.6)	(23.9)

注) () 内は第5学年男子 (n=273), 第5学年女子 (n=228), 第5学年合計 (n=501), 第6学年男子 (n=250), 第6学年女子 (n=228), 第6学年合計 (n=478), 男子計 (n=523), 女子計 (n=456), 合計 (n=979) を、それぞれ100とした割合を示す。

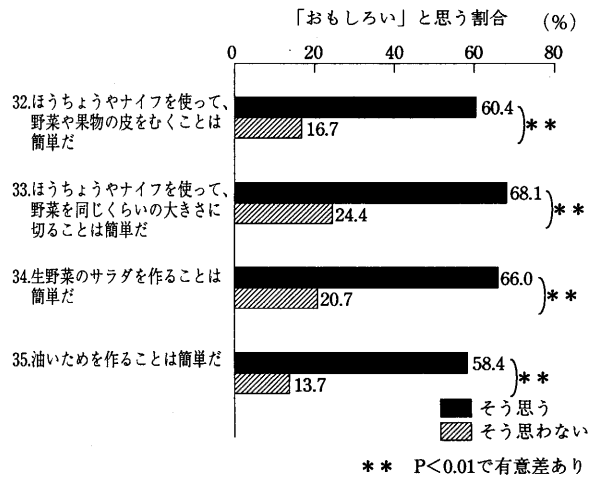


図2 技術の難易の認識と学習意欲との関連

男女ともに第6学年は第5学年よりも低率を示しており、特に男子は第6学年で第5学年の2分の1以下の値を示している。被服製作に関する縫製技術に対しては、男子は第6学年で第5学年の約2倍の割合に増加したが、調理技術については相反する結果となった。また、図2に示すように、野菜や果物の皮をむくこと、野菜や果物を切ること、サラダ作り、油いためを「簡単だ」と思う児童の方が、「簡単だ」と思わない児童よりもこれらの作業を「おもしろい」と思う率が高く、両者間には有意差が認められた。被服製作と同様に、調理技術についても、技術に対する難易の認識が学習意欲を左右すると考えられる。

4. 結 論

調理実習に対する小学校第5・6学年児童の意識を調査した結果、以下の結論が得られた。

1. 「調理実習で作ったものを食べること」に対する楽しさは男女ともに高率であるが、調理をすることに対しては男女の意識に差がみられ、男子は女子よりもやや低率である。
2. 第5学年の方が、個々の調理技術について「簡単だ」と考えており、学年進行にともない

調理技術についての自信が失われる傾向が認められる。

3. 調理実習に対する意欲の高い「高意欲群」の男子は、男子が調理を学習することに対して、高意欲群の女子よりも高率で肯定している。また、高意欲群の女子の約9割は、女子が調理を学習することを肯定している。
4. 調理実習に対する学習意欲は、調理の学習について「男女必要型」、「女子必要型」、「男女不要型」の順に高い。「男女必要型」は、家庭での調理経験が多い児童であり、特に男子にこの傾向が顕著にみられる。
5. 調理技術の難易の認識が学習意欲に結びついており、「簡単だ」と思う児童ほどその学習を「おもしろい」と感じている。
6. 調理実習もまた既報の被服製作実習と同様に、児童の意識にある伝統的な性別役割分業意識が、学習意欲を左右していると考えられる。

終わりに、本調査にご協力くださいました小学校の先生方ならびに児童の皆様に深謝申し上げます。

本研究の一部は、1990(平成2)年7月、日本家庭科教育学会第33回大会において発表した。

引用文献

- 1) 大山サカエ・石渡すみ江・清水房, 家庭科教育内容に関する研究Ⅲ (第2報) 調理学習における児童の意識調査, 家政学雑誌 Vol.24, No.5, 426~433(1973)
- 2) 大山サカエ・石渡すみ江・清水房, 調理実習における児童の難易の意識調査, 家政学雑誌 Vol.28, No.3, 236~242(1977)
- 3) 堀内かおる・武井洋子・田部井恵美子, 家庭科の学習に対する児童の意識 (第1報) 被服製作に対する意識, 日本家庭科教育学会誌 Vol.34, No.3, 53~60(1991)
- 4) 日本家庭科教育学会, 現代の子どもたちは家庭生活で何ができるか, 家政教育社, 75~76 (1985)
- 5) 藤原康晴・宮本寿江・岡部禎子・所康子, 児童・生徒の家事に対する性別役割分業意識と家事手伝いとの関連性, 日本家庭科教育学会誌 Vol.32, No.2, 1~5(1989)